

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームシャイニング フラワーユニット	評価実施年月日	平成21年11月10日(火)
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月18日(水)

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>研修参加や情報提供など、実際の法律について学ぶ機会を持ちたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々、入居者と対話しながら、意見や不満、苦情に対応している。また必要に応じて会議等での対応を検討するなどしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者の状態に変化があった際は、必ずご家族へお伝えすることとしている。また毎月ご本人の写真とあわせて近況報告のお便りを送っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付窓口を設置しており、苦情処理責任者が対応しているほか、併せて市・介護高齢課や国保連などの連絡先を外部の相談窓口として入り口掲示板に掲示している。また不満等はその都度職員や管理者にお伝え頂くようにしている。		苦情等、言いにくい場合に配慮して、ご意見箱等を設置する。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が出来るだけ率直に意見や提案をしやすいよう日頃から配慮することと共に、朝礼、職員会議、ユニット会議などでそれらを聴く機会としている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ホワイトボードやカレンダーを活用しながら必要時に対応できるよう、日常的に話し合い調整している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は、どうしてもやむを得ない場合の最終手段と心得、極力行なわない。また職員には出来るだけ長く働いてもらいたいという想いから、常勤職員としての雇用を中心に、体制を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修の案内は閲覧できるよう事務所の机の上に置き、希望に応じて参加できるようにしている。また必要なものは運営者から参加を促している。また毎月の職員会議では受講者より全体へ報告する機会を作っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホームケア研究会の事務局を担っており、研修会等あれば職員に参加を促すなどしている。</p>	<p>他事業所の管理者をお招きしての研修会の実施。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>歓送迎会や忘年会、飲み会など無礼講に楽しめる企画を実施したり、必要なければ早めの退勤を促し、各々のプライベートも大切にしよう指導している。</p>	<p>個人的な悩みや相談にも応じていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個々の頑張りを適切に評価するよう努めている。業務に対するやる気や、入居者への想い、それぞれの持つ経験を十分発揮できるよう、配慮している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用契約前に出来る限り施設内見学をしていただくようにしている。また事前にアセスメントに伺い、ご本人のご要望等を伺うようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>出来るだけ事前の見学をして頂き、その際にお話を伺う機会を設け、それぞれの持つ困りごとや悩み、不安などを受け止めるように心掛けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族の思いや意向を確認し、グループホームとして出来ること・出来ないことを明らかにしながら必要に応じて他のサービスや相談窓口に繋げるようにしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	出来る限り事前見学をしていただき、心配なことや気がかりなことを少しでも解消し、十分な納得をしていただいて利用につなげるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	単にサービス利用の対象者としてではなく、人生の先輩として、その方の生活背景などにも目を向けながら学び、お世話していただいたことには感謝しながら日々を過ごしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	出来るだけご家族に入居者の日常の様子を伝えながら、お互いがご本人介護のチームの一員としていけるよう、働きかけるようにしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	あるがままに受け止め、職員としてどう関わるのが良いかその都度話し合い、支援方法を探っている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に来られた際など、折を見て日頃の様子をお伝えしたり、ご本人にとっても面会は励みや楽しみとなることを伝え次につなげる工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の関係や相性を見極め、必要に応じて関わりを促したり、仲裁に入ったりして支援している。ちょっとしたゲームを数人で楽しむなど、関わり合う機会をつくるなど。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	該当例なし。		今後、他の機関等へ移行された方がいらしたときは、継続して関わりを持てるようにしていきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や日頃の様子、これまでの経過などを通して、ご本人の希望や意向の把握に努め、対応している。困難な場合でも、ご本人らしさを大切にしながら対応を検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人との会話や、他機関からの申し送り、ご家族からの情報をもとに、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎朝の朝礼・記録にて申し送りし、毎日バイタルチェックを行ない、様子の変化に注意するなどしている。ケアプラン作成の際は担当者会議にて個々の入居者の出来ること、出来ないことを見極めながら対応を考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画作成はケース担当者とケアマネで話し合い、また日頃からご本人、ご家族、医療関係者等の意見を頂きながら、行なっている。出来るだけご本人の思いや力の発揮が反映出来るよう、セルフケアの視点も大切にしながら作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご本人、ご家族、その他必要な関係者とは日頃から、その都度話合いや情報交換を行ない、柔軟な対応を心掛けている。即時に計画書にまとめられない場合でも、必要な対応が出来るよう書面化し、全職員に申し送るなどしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録、医療関係者との連絡ノート、申し送りノートなど活用し、職員は各自確認し捺印し、情報の共有、対応の統一化を図っている。またそれらを通してより良い介護計画作りを目指している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	小規模ならではの柔軟性を活かして、その都度対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事の際は地域の芸能ボランティアを依頼して交流を持つ、運営推進会議のメンバーとして、地域の民生委員に協力を頂いている、など。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じて福祉用具事業者など他事業者と相談の機会を持つ、入退所の際には先方のケアマネージャーや担当者や情報をやり取りするなどしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者の生活向上のため、必要に応じて地域包括支援センターに相談に乗っていただいたり、研修会や勉強会に参加させていただきなどしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	毎週の往診や、日常的な相談・報告を行ないながら、ご本人にとって必要な医療が出来るだけ円滑かつすみやかに受けられるよう、関係作りに努めている。		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	定期受診の際には入居者の日々の様子について詳しく報告し、より適切な判断をいただけるよう努めている。また状態の変化などあれば電話で相談するなどしている。		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	週1回非常勤看護師を配置しており、日常の変化等連絡ノートを活用して伝達しあい、効率よく入居者の状態把握等出来るよう工夫している。		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	入居者が入院した際は情報提供書を作成し、担当看護師に渡す、退院時は看護サマリーをいただいてケアプランに反映させる、医師からの病状説明にはご家族に同意をいただいた上で出来るだけ同席させていただき、グループホームからの意見を伝えられるようにしている。		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	ご家族来訪時や必要と認められる時にご本人の様子について伝えるほか、話し合いの機会を持ち意向確認等出来るようにしている。		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	ユニット内、事業所全体で話し合いながら、出来ることと出来ないことの見極め、それを踏まえながらかかりつけ医とも相談し対応について検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>該当例なし。</p>		<p>必要が生じた場合は対応して行きたい。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>居室に入る際は出来るだけご本人に一声かけ、了解のもと入室するなどしている。集団生活であっても、個々の私生活を大切にしながら言葉かけ等にも配慮して対応している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は、必ず入居者と対話し、ご本人の納得できる暮らしが実現できるよう柔軟に対応している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者の生活リズムやペースを尊重し、職員が柔軟に対応するよう心掛けている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>特に希望がない場合は訪問理美容をご利用頂いている。行事での記念撮影時、口紅を引いての撮影は好評であった。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>検食簿をつける、毎月給食会議を開催するなどして、食事が楽しみとなるように工夫している。また日常的に食器洗いなどの片付けを、一部の入居者と一緒に行なっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体調と相談しながら、お正月や行事の際にお酒を勧めるなどしている。またその方の好みに応じて甘いお菓子を用意しておくなどしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々に排泄チェックを行い、それぞれのペース・パターンに応じて対応方法を決めている。またできるだけ下剤などに頼らないよう、便座に座る機会を作る、水分摂取量を減らさない、など工夫している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本のパターンは決めさせて頂いているが、それをもとに入居者の状態や希望に沿って随時変更して対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	落ち着けず眠れない時は職員が寄り添うなどして安眠を促す、不調等で眠れなかった場合などは朝でも無理に起こさず睡眠をとってもらうなどしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	定期的な買い物支援や、家事などの役割、好きなテレビ番組への誘いかけなど行っている。またご家族の面会を呼びかけるなどご要望に沿って対応している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	可能な方には、月ごとに決まった額をお渡しして、定期的に買い物へ行くなどしている。また買い物などは難しくても、必要に応じて通帳や預かり金について確認していただくなどしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	年間の外出計画を立てているほか、病院受診の帰りに近隣の風景を見て帰るなどはしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	近隣からのお誘いで、サクランボ狩りや大根掘りへ行くなど。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご希望に応じ、ご家族への電話の取り次ぎを行っている。ご家族からのお電話もご本人に取り次ぐなどしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者の生活に支障のない時間帯は、面会訪問に関しての制限は設けていない。また、毎月発行しているお便りや、電話などで必要に応じ面会を呼びかけたり、訪問時ゆっくり居室で過ごしていただけるよう、配慮するなどしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月の会議にて事例検討や具体的な対応について検討するなどしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会の取り組みや、日頃の対応を通して理解を深め、ケアの向上に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は必ず職員間で声掛け合い、ホールでの見守り体制を確保し、どうしても手が足りない場合でも事務所に声かけ応援を呼ぶなどしている。夜間は3時間ごとに居室を巡回し、安否確認を行なっている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご本人の生活や状態に応じて、管理をしていただく、それが困難になってきた場合は、ご本人ともよく相談して対応を決めている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット報告を行ない、事故防止に取り組む、避難訓練の際、防災設備業者から助言等いただくなど、火災の防止に役立てるなどしている。またそのために入居者の行動を制限してしまわないよう、入居者のプライバシーにも配慮するよう心掛けている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	現在のところ、緊急時はケアマネ・施設長に連絡し、必要に応じて医師等へ繋ぐようにしている。		今後は救急救命についての知識普及や、訓練を実施していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議にて、災害時には地域の方々からの協力をお願いしたい旨、呼びかけている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状態に応じて起こりうるリスクと、身体拘束のないケアを目指していることをご家族に説明し、同意をいただくようにしている。グループホームとして出来る対応策についても話し合い、ご家族にお伝えしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日バイタルチェックや、水分摂取量、排便状況の把握を行い、変調時には迅速な対応を心掛けている。またそれ以外にも表情や行動の変化、入浴時など皮膚状態の観察を行なっている。気付いた時点でケアマネや医療関係者に相談・報告し、その後の対応を行なっている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の説明書をファイリングし、必要に応じて見返すことが出来るようにしている。また不明な点等は必ず医師・薬剤師に相談し、服薬変更の際にはその後の様子の変化に注意するようになっている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>出来るだけ水分摂取を促し、飲めない方にはゼリーでの促しなど形態を工夫するなど、また食後や訴え時には便座に座っていただく、無理のない範囲で歩行運動を促すなどしている。 また排便チェック表を利用して個々人の排便リズムを把握し、便秘の状態が長くならないよう、医師の指示のもと必要に応じて、下剤等にて対応している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>その方の状態に応じて介助している。ご自分で行なっている方も、様子を見て確認し食物残渣などあれば仕上げを促すなどしている。</p>	<p>口腔看護ステーションのスタッフによる、口腔ケア講習会の実施を予定している。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>検食簿をつけ、日々の食事摂取量の把握をしている、毎月給食会議を開いて、栄養面についても検討の機会を持っている、水分摂取した際その都度記録し、夜勤者がその日ごとのトータルを出して把握に努めている。あまり飲めない方にはゼリーでの促しなど形態にも工夫している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>衛生・消毒担当者を決め、手洗いうがいの励行や感染予防対策を講じている。</p>	<p>スタンダード・プレコ-ションの普及の徹底。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>調理に入る際は手洗いを習慣づけ、布巾類は毎日塩素系漂白剤で消毒するなどして食中毒予防を行なっている。</p> <p>当然ではあるが、食材の消費期限には注意をし、長く買い置きしないようにしている。また冷凍食品や既製品は最低限度にし、新鮮で旬を活かした食事づくりを心掛けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>建物正面には花壇を配置し、冬期は除雪を欠かさないなど、入りやすい工夫をしている。またホームの広報や掲示物を掲示して、ホームの雰囲気が少しでも伝わるように努めている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>広報係を決め、季節や時期にあった写真や飾り等を掲示・管理している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ホール内テーブルは5角形のものを使用し、対面角度への配慮や用途にあった配置の工夫が出来るようになっている。その他ソファや大型のテレビを置いて、思い思いに過ごせるよう工夫している。また必要に応じて、事務所を相談場所に使っていただくなどしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人やご家族の要望に応じ、家具や仏壇、ベッドなど使い慣れたものを配置し、その人らしい空間となるようにご利用いただいている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>その都度窓を開け対応している。また冬場は入居者が居室に戻ったところを見計らって窓を開けるなど、寒さの影響がないよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>共有部分のほとんどに手すりが付いており、移動時の際生活リハビリ的に利用していただいている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>それぞれの居室に名札がある。トイレを探される方が多いので、特に大きく表示してわかりやすいよう工夫している。</p>	<p>ご自身の部屋がわからず迷われる方がいらした場合は、お名前を見えやすく表示するなど工夫していきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>正面入り口前にはベンチや花壇、あずま屋を配置して楽しめるようになっている。また建物裏手には畑があり、野菜栽培などを入居者と一緒に行なっている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p> <input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない </p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない </p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

小規模ならではの家庭的な関わりの中で、一人一人と必ず対話しながら、アットホームな生活空間の提供を心掛けている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム シャイニング フルーツユニット	評価実施年月日	平成21年11月10日(火)
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月18日(水)

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>家庭的な雰囲気であり、ご家族と居た時と同じような雰囲気で生活出来る事、施設自身が1つの家族になるように理念を掲げている。</p> <p>理念を職員間の目標として作り上げている</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>月に1回の職員会議、ユニットカンファレンスを行い理念に基づいた支援を検討し実践に向けている</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族へは「シャイニング新聞」を郵送し活用している。</p> <p>地域の方々に対しては夏祭り等のイベントに参加して下さった時やご町内の会合等の機会がある際分かり易く説明し対応している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩時等ご近所の方々にご挨拶をしたりして関わりを持つ事を常に心掛けている</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の行事に参加したり地元の人達と交流を図っている。</p> <p>またGHでの夏祭り、バザー等開催するに当たって日常生活を通じ地域との連携が行われている。施設長は地域社会福祉協議会の役員をしており、地域の方々との交流機会が多い。</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の方からの相談があれば、管理者が対応している。また町内会合などを利用して、地域の方々への認知症についての理解を促すなどしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	訴えや要望があった際は、その都度対応している。		訴えを待つのではなく、職員からもくみ取るように対応していきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者の状態に変化があった際は、必ずご家族へお伝えすることとしている。また毎月ご本人の写真とあわせて近況報告のお便りを送っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付窓口を設置しており、苦情処理責任者が対応しているほか、併せて市・介護高齢課や国保連などの連絡先を外部の相談窓口として入り口掲示板に掲示している。また不満等はその都度職員や管理者にお伝え頂くようにしている。		苦情等、言いにくい場合に配慮して、ご意見箱等を設置する。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が出来るだけ率直に意見や提案をしやすいよう日頃から配慮することと共に、朝礼、職員会議、ユニット会議などでそれらを聴く機会としている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者様の状態、状況に応じ検討していく。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	「シャイニング新聞」で職員紹介記事を掲載している。管理者は職員の異動などで入居者様に影響がでないように配慮する取り組みを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修の案内は閲覧できるよう事務所の机の上に置き、希望に応じて参加できるようにしている。また必要なものは運営者から参加を促している。また毎月の職員会議では受講者より全体へ報告する機会を作っている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホームケア研究会の事務局を担っており、研修会等あれば職員に参加を促すなどしている。</p>	<p>他事業所の管理者をお招きしての研修会の実施。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>歓送迎会や忘年会、飲み会など無礼講に楽しめる企画を実施したり、必要なければ早めの退勤を促し、各々のプライベートも大切にしよう指導している。</p>	<p>個人的な悩みや相談にも応じていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個々の頑張りを適切に評価するよう努めている。業務に対するやる気や、入居者への想い、それぞれの持つ経験を十分発揮できるよう、配慮している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用契約前に出来る限り施設内見学をしていただくようにしている。また事前にアセスメントに伺い、ご本人のご要望等を伺うようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>出来るだけ事前の見学をして頂き、その際にお話を伺う機会を設け、それぞれの持つ困りごとや悩み、不安などを受け止めるように心掛けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族の思いや意向を確認し、グループホームとして出来ること・出来ないことを明らかにしながら必要に応じて他のサービスや相談窓口に繋げるようにしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	出来る限り事前見学をしていただき、心配なことや気がかりなことを少しでも解消し、十分な納得をしていただいて利用につなげるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様のお話を傾聴、共に笑ったり共感したり日常生活の中に活躍できる場面を作ったりして取り組んでいる。		
28 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	病院受診後は家族に症状、治療内容等報告を行っている。面会等に来訪された際、日頃の様子を伝えご家族の意向を聴き支援していく。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会に来られる家族が多く事業所の行事、イベント等の参加を呼びかけし機会を少しでも多くとれるようにしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	出来る限り関係継続支援に努めているが難しい事もある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の性格、人間関係を把握、良い関係が築けられるよう支援していく		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された入居者様やイベントの案内を必要とする情報を出すなどして継続した付き合いが出来るよう心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声かけし表情から意思を汲み取る努力をしている 生活リズムを大きく崩すことのないよう思いを受け止め生活して頂けるようにしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族が来訪の際に昔の暮らし、好きな事、嫌いな事などの情報を得るよう心掛けている。お茶やコーヒー等飲んで頂きその人の生活歴を聞いたりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々のコミュニケーションを図ることで入居者様の状況、状態の把握や記録等をとったりする事で対応している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族面会時に家族から意向を取り入れたり職員と話し合いを持ち計画作成を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間前でも入居者様の状況、状態に応じ変化があったらカンファレンスを行い計画を見直ししている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録はもちろん、職員の気づき等介護計画へ活かせるよう取り組んでいる		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームで対応出来ないような要望でも、可能であれば他のサービスや事業所へ繋げたり問い合わせたりしている。		小規模の特徴を活かした柔軟な対応が出来るようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事の際は地域の芸能ボランティアを依頼して交流を持つ、運営推進会議のメンバーとして、地域の民生委員に協力を頂いている、など。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じて福祉用具事業者など他事業者と相談の機会を持つ、入退所の際には先方のケアマネージャーや担当者と情報をやり取りするなどしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者の生活向上のため、必要に応じて地域包括支援センターに相談に乗っていただいたり、研修会や勉強会に参加させていただきなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週1回協力医療機関から在宅診療にて往診を受けている 家族の希望を聞き医療機関を決めている		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期受診時に様子等相談報告している、必要時には家族の同行も行い一緒に医師から説明を受けるよう支援している		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に1回、非常勤看護師が勤務しており、血圧チェックや触診等行い健康管理している		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者が入院した際は情報提供書を作成し、担当看護師に渡す、退院時は看護サマリーをいただいてケアプランに反映させる、医師からの病状説明にはご家族に同意をいただいた上で出来るだけ同席させていただき、グループホームからの意見を伝えられるようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族来訪時や必要と認められる時にご本人の様子について伝えるほか、話し合いの機会を持ち意向確認等出来るようにしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ユニット内、事業所全体で話し合いながら、出来ることと出来ないことの見極め、それを踏まえながらかかりつけ医とも相談し対応について検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>該当例なし。</p>		<p>必要が生じた場合は対応して行きたい。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報に関しては契約書に明記し適切に対応している 職員は入居者様の誇りを損ねることのないような声かけや対応を心掛けている</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者様にわかりやすい声かけをするよう気をつけて自己決定を支援している</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>常に業務優先と考えるのではなく入居者様の事を優先に考えてペースに合わせていくよう気をつけている</p>		<p>業務が優先してしまわぬよう心掛け支援に努める</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理美容師が40日に1回来訪し、カットや毛染め等行っている 女性入居者様は身だしなみには特に気をつけている</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個々の力に応じて行っている、食事に工夫をしたり楽しみを持てるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人様がコーヒーを飲みたいと訴えたりしたらその都度飲み物を提供している お酒はお祭りの時などに訴えあれば提供している タバコ吸う方はいません		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握しその都度パット等の必要性を検討し対応している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回設定しているが臨機応変に対応している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の習慣を大切にしている、消灯も夜勤職員の都合に合わせて入居者様のペースに合わせホールでテレビを観たりして過ごされている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来る範囲での家事(お盆拭き等)や掃除、軽作業、調理の手伝い等1人1人の役割を持っている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は特に実施していない。		外出の機会や行事の際などを利用して、買い物の支援など考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	晴れている日等入居者様に散歩の声掛けを行い施設周辺を散歩したりしています		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月ごとに外出行事を計画しているが個別での外出支援は十分とは言えない		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご希望があった際は、ご家族等への電話の取り次ぎを行なう。ご家族等からのお電話もご本人に取り次ぐなどしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問できるような雰囲気作りを心掛けている ゆったりと過ごせるようお茶等提供している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	転倒の危険性のある方に付き添いをし身体拘束する事なく対応している		今後も身体拘束のゼロのケアに取り組んでいきたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入り口等に鈴を付け対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室、ホールから全体を観れる位置に職員デスクを置き夜間は定時の巡回を行っている		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁等は危険であり入居者様の目の届かない棚や物品庫にしまっている 手洗い用石鹸はトイレに備えてあるが職員見守りし対応している		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットを提出し1人1人の意見をまとめカンファレンスを行い予防等話し合っている		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	現在のところ、緊急時はケアマネ・施設長に連絡し、必要に応じて医師等へ繋ぐようにしている。		今後は救急救命についての知識普及や、訓練を実施していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災設備会社協力のもと避難訓練を実施している ガス、火気等使用せずIHで対応している。暖房に関しても火気使用せず電気を使用している		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状況変化があったりした際、家族に訪問時や電話での連絡を行い起こりうるリスクや今後の対応を説明し理解を得る		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日血圧測定を行い変化があったりした際掛かり付けの医師に連絡し指示を仰いでいる</p> <p>身体状況も記録に残し職員全体が把握出来るよう対応している</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の内容については個々のファイルで確認する事が出来る</p> <p>症状の変化の確認に努め医師や看護師に相談している</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>入居者1人1人の状態に合わせて水分補給や食摂等で対応、それでも便秘の場合医師に相談、下剤処方、ホットパック、腹部マッサージ施行したりして便秘を解消している</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>歯磨きが出来ない入居者様についても職員が磨いたり工夫している</p> <p>夜間義歯を預かり洗浄している</p>	<p>口腔看護ステーションのスタッフによる、口腔ケア講習会の実施を予定している。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>給食会議を月に1回行い栄養面に対して対応している。栄養状態が良くない方には栄養補助ゼリーやラコールを摂取し対応している</p> <p>水分量に関しては、1日のトータルを記録に残している</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザ予防接種は家族に同意書を頂き毎年接種している</p> <p>衛生・消毒の係をもうけて手洗い、うがいの励行を徹底している</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	衛生・消毒係をもうけて衛生面に対し取り組んでいる(ノロウイルス対策等)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関前にベンチやプランターを置きそこで休めるようにし花を植えて季節を感じてもらえるように対応している		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家庭的で安心できるような雰囲気を感じて頂けるよう努めている		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ホール内にソファを置き好きな時間にくつろいでもらえるようにしている。ゴロ寝を楽しみたい人の為に小上がりもあり便利な場所になっている		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室には「入居者様の馴染みの物を」と家族と話し合っているが現状そうもいかずある物で工夫している		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	各居室に温度計を設置して時々窓を開け空気の入換えを行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>出来る限り自立した生活を送れるよう廊下、トイレ、浴室に手すりを設けて対処している</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>困難が増えたときはどのようなケアが本人のためになるのか職員で話し合い不安材料の撤去やきっかけ作り等様々な事を試している</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>狭いスペースではあるが畑や花壇を作ったりして外での活動の幅を広げる様にしている</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少)しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者様の明るさを引き出せるよう職員皆取り組んでいる。月に1回程度、昼食の際にテーブルを囲み会食として実施している。この雰囲気これから壊れることのないよう対応していきたい。